

鴻巣市
ヤングケアラーに関するアンケート調査
(高校生年代を対象) 報告書

令和8年2月

鴻巣市こども未来部子育て支援課

目次

I	調査の概要	1
II	調査結果の取りまとめ、考察	
	1. ヤングケアラーの認知度や自覚	2
	2. ヤングケアラーの実態	3
	3. 調査結果の考察	4
III	今後の支援の方向性	5
IV	調査結果	6

I 調査の概要

(1) 調査の目的

記名式によるヤングケアラーアンケート調査を実施し、ヤングケアラーと認められる高校生年代が市内にどの程度存在しているかを把握し、支援を希望する対象者を相談につなげることを目的とする。

また、本調査を通して対象者及びその家族の支援やサービスのニーズを知り、相談・連携等の整備について検討する。

(2) 調査対象

鴻巣市に住所を有する15歳から18歳の高校生年代に該当する者（令和7年7月1日時点）

※平成19年4月2日生から平成22年4月1日生

(3) 調査方法

高校生年代に調査依頼文を郵送。Webアンケートツールによる回答で実施。

(4) 調査期間

令和7年7月24日（木）から8月25日（月）まで

(5) 回答状況

調査対象者数	2, 9 4 2 人
回答者数	4 3 0 人
回収率	1 4 . 6 %

アンケート調査集計に関するお詫び

複数回答と設定した問12・13・15・21・22・23については、回答が一つしか選択できない設定となっておりました。アンケート設定上に不備があり、ご協力いただいた方々にご迷惑をおかけいたしましたこと、お詫び申し上げます。

なお、回答された内容を第一回答と捉え、本報告書を作成しております。

II 調査の取りまとめ、考察

※高校生年代を「高校生」と読替え表記。

1. ヤングケアラーの認知度や自覚

(1) ヤングケアラーの認知度

ヤングケアラーの認知度については、「内容まで理解している」が77.9%と概ね認知されていることがわかった。しかし一方で、「言葉だけ知っている」や「知らない」の回答を合わせると22.1%もの高校生が、ヤングケアラーを認知していなかった。

参考までに、国が令和2年度に全国の全日制高校の2年生を対象に実施したヤングケアラーの実態調査^{※注1}では、「ヤングケアラーという言葉聞いたことがあり、内容も知っている」との回答は7.7%であった。

(2) ヤングケアラーの自覚

「現在ヤングケアラーだと思う」が0.9%と低い回答で、「以前ヤングケアラーだったと思う」の回答と合わせても1.4%にとどまっており、「ヤングケアラーか分からない」と回答した高校生は4.4%いた。

また、「一緒に住んでいる人の中で、ケアを必要としている人がいる」と回答した高校生は3.3%（14人）いた。回答を解析すると、14人のうち「現在ヤングケアラーである」は1人、「以前ヤングケアラーだった」1人、「ヤングケアラーか分からない」は4人、「ヤングケアラーではない」は8人であった。

参考までに、国が令和2年度に全国の全日制高校の2年生を対象に実施したヤングケアラーの実態調査^{※注1}では、「自分がヤングケアラーにあてはまる」が2.3%、「自分がヤングケアラーか分からない」は16.3%であった。また、埼玉県が令和2年度に高校2年生を対象に実施したヤングケアラーの実態調査^{※注2}では、「自分自身がヤングケアラーである、または過去にそうであったと思う」との回答は4.1%であった。

※注1 参考資料「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書(令和3年3月)」

※注2 参考資料「埼玉県ケアラー支援計画のためのヤングケアラーの実態調査結果(令和2年11月25日)」

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている

家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている

障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている

目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている

日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている

家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている

アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している

がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている

障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている

障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / Illustration : Izumi Shiga

2. ヤングケアラーの実態

(1) ケアを必要としている家族について

「一緒に住んでいる人の中で、ケアを必要としている人がいる」が全体の3.3%（約30人に1人）おり、さらに「その人のケアをすることがある」が全体の2.3%（約43人に1人）を占めていた。

ケアを必要としている家族は、主にきょうだい、母親、祖父の順となっている。ケアを受けている人の状況としては、きょうだいでは「乳幼児や小中学生」や「障がいがある」、母親では「日本語が不得意」「病気がある」、祖父は「高齢者（65歳以上）」であった。

(2) ケアの内容について

「ケアが必要な人にどのようなケアをしているか」では、「きょうだいの世話」が最も多く、次いで「家事の手伝いと感情面のサポート」、「身体的介護と言語サポート」の順であった。ケアを誰かと一緒にしている高校生は90%と高い一方、ほとんど一人で行っている高校生もいた。

また、ケアをしている頻度は、月に数回、1時間未満が多かったが、毎日3時間以上行っている高校生もいた。「学校や仕事（アルバイト）がない日に行っている」と「学校や仕事（アルバイト）がある、ないに関わらず行っている」の割合は同じであった。ケアを行い始めた時期としては、「小学生・中学生の頃から」が最も多く、次いで「中学校卒業後から」と「覚えていない」が同じ割合であった。

(3) 生活の影響や悩み事の相談

生活の影響については、「ストレスがたまり気持ちが不安定になる」などがあがったが、半数は「特に影響はない」であった。

また、「ケアをすることがある」と回答した高校生の相談相手は、「一緒に住んでいる家族、親戚、知り合い」が最も多く、次いで「誰にも話したことはない」であった。

(4) ヤングケアラーに必要な支援

利用したい支援については、「ケアの負担を減らせる支援」や「電話で相談できる場所」などがあがったが、半数以上は「特になし」であった。

3. 調査結果の考察

○ヤングケアラーの認知度

- ・ 社会的な関心の高まりや学校などでの啓発活動を通して、ヤングケアラーの認知が高まったものと思われる。しかし、ヤングケアラーを認知していない高校生もいることから、正しい認識のもと更なる広報啓発活動を続ける必要がある。

○ヤングケアラーの自覚

- ・ ヤングケアラーに自分が実際に該当していても、自分が支援の対象であると気付いていない高校生が多数いる。
- ・ 「ヤングケアラーと自覚していない」「分からない」と回答するものの、家族のケアをすることがあるという高校生は一定数いた。しかし、自覚があっても、かつ家族のケアをしている回答数は少ないことから、分析が難しい結果となった。

○日常生活への影響

- ・ ケアをすることによる生活への影響は「特になし」が多かったが、精神的な面をあげている高校生が多い。話をできる場所、話を聞いてあげることが必要である。

○ケアを始めた時期

- ・ 小学生の頃から家族のケアを始めていると回答した高校生は、長期間負担を抱えていたり、ケアが日常化している可能性がある。また、年齢が増す程ケアに携わる高校生が増えている。

○相談相手の有無

- ・ 身近な人に相談できている高校生がいる一方で、誰にも話さずにいる高校生もいることがわかった。

○利用したい支援

- ・ 利用したい支援として「ケアの負担を減らせる支援」や「電話で相談できる場所」などがあがった。一方で、「支援を求めている・求められない」と感じている高校生も半数以上おり、「家族だから当たり前」「相談しても変わらない」という意識を抱えている可能性がある。
- ・ 「ヤングケアラーだと思う」と回答した高校生の多くは、自分から連絡をして話を聞いてもらうことを望んでいる。

Ⅲ 今後の支援の方向性

(1) ヤングケアラーの周知・啓発と理解促進について

ヤングケアラーの言葉や概念を知っている高校生が多いことを把握することができた。しかし、家族のケアの日常化・常態化により、ヤングケアラーだと気が付いていない高校生が存在することも考えられる。そのため、高校生自身が、ヤングケアラーの現状を認識し、正しい知識を正しく理解するための周知・啓発等をより一層広める取り組みが必要である。

また、高校生だけではなく、保護者、学校、地域等の支援者となる大人も、ヤングケアラーの状況を正しく認識する必要がある。ヤングケアラーの認知度を高め、かつ、ヤングケアラーの支援の重要性についての理解を進めるために、地域にむけての啓発や支援者向けへの研修会開催などの取り組みが重要である。

(2) 相談体制の整備について

「悩みごとや困りごとがあっても相談するまでもない」と、声に出すことのないまま自己完結している高校生や、小学生の段階で家族のケアを始めている高校生が一定数存在していることも把握することができた。「どこで、誰が、どのような形で、悩みなどを聴いてくれるのか」、高校生が気軽に相談できる体制をつくり、悩んでいる高校生を取り残さないことが重要である。また、学校や地域等の支援者となる大人が、ヤングケアラーの存在を早期に把握し、寄り添い、必要に応じて相談につなげることも大切である。

そのために、高校生、学校や地域等の支援者の誰に対しても、相談できる場所や相談先の情報をわかりやすく周知し、地域全体で相談できる窓口を共有する仕組みを整備する必要がある。

(3) 関係機関との連携について

ヤングケアラーは、学校生活や福祉・医療・就労など多面的な課題が重なり合っていることが多いため、一つの機関だけで支援することは難しい。

ヤングケアラー問題は、高校生を核に取り巻く家族全体を支援する必要があることを認識し、関係機関が連携して支援することが重要である。家庭の状況に応じた支援をするために、地域の関係機関と「つながる・つなげる・つながりあう」こと、そして、地域の多様な機関が関わり、それぞれが持てる役割を果たすことができるように、関係機関が連携して情報共有と役割分担を担う仕組みづくりが重要である。さらに、支援につながった後も、支援が途切れることのないように、見守り体制を継続する必要がある。

(4) こども家庭センターや要保護児童対策地域協議会の役割について

こども家庭センターは、子育て支援、母子保健、教育、福祉、医療等と日常的に連携し、こどもと家庭に関する情報が集約される拠点であることから、ヤングケアラーの早期発見および支援の起点として重要な役割を担う。こどもの生活状況や家庭環境をふまえたアセスメントを行い、こども本人の思いや意思を尊重しながら、適切な支援方針を調整する。

またヤングケアラー支援においては、関係機関と連携しながら個別支援を実施しているが、今後は要保護児童対策地域協議会の活用について検討し、情報共有や協働の仕組みを整えながら、継続的かつ包括的に支援できる体制づくりを進めていく。虐待対応のみならず、ヤングケアラーを含む要支援児童への支援調整の場を確保して、こどもが孤立しないよう、地域全体で支える支援を目指していく。

IV 調査結果

※各表、グラフに使われる「n」は各設問に対する回答者数。

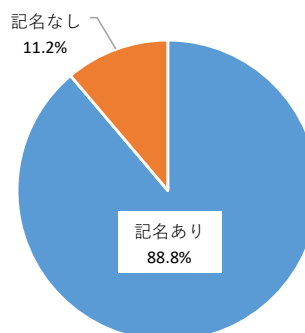
1. 基本情報

(1) 記名の有無

問1 あなたの名前を記入してください。

(全員回答)

	回答数(人)	割合
記名あり	382	88.8%
記名なし	48	11.2%
総計	430	100.0%

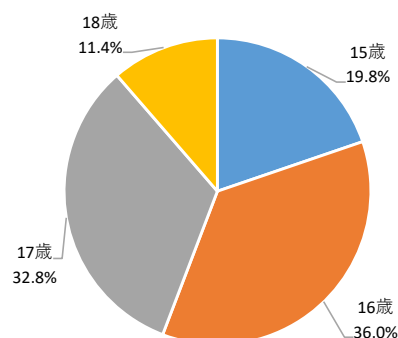


(2) 年齢

問2 あなたの年齢を教えてください。(令和7年7月1日現在の年齢)

(全員回答)

年齢	回答数(人)	割合
15歳	85	19.8%
16歳	155	36.0%
17歳	141	32.8%
18歳	49	11.4%
総計	430	100.0%

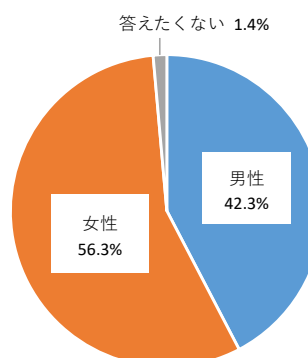


(3) 性別

問3 あなたの性別を教えてください。

(全員回答)

性別	回答数(人)	割合
男性	182	42.3%
女性	242	56.3%
答えたくない	6	1.4%
その他	0	0.0%
総計	430	100.0%

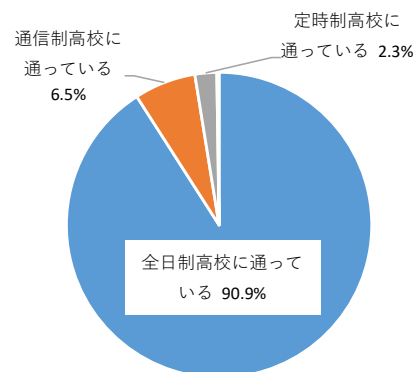


(4) 通学状況

問4 あなたの通学状況を教えてください。

(全員回答)

通学状況	回答数(人)	割合
全日制高校に通っている	391	90.9%
通信制高校に通っている	28	6.5%
定時制高校に通っている	10	2.3%
その他	1	0.2%
通っていない	0	0.0%
総計	430	100.0%

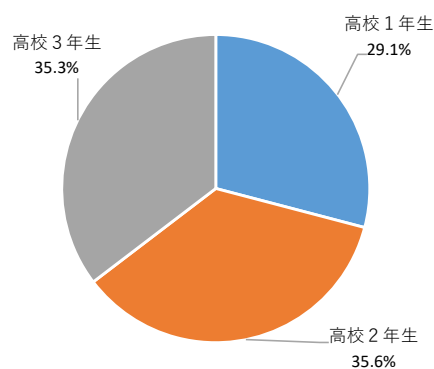


(5) 学年

問5 高校に通っている場合、あなたの学年を教えてください。

(高校に通っていると回答した方のみ)

学年	回答数(人)	割合
高校1年生	125	29.1%
高校2年生	153	35.6%
高校3年生	152	35.3%
その他	0	0.0%
総計	430	100.0%



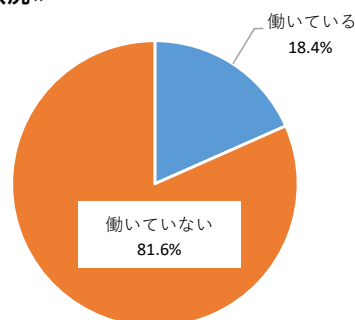
(6) 就学状況

問6 あなたは働いていますか。(アルバイトを含む)	(全員回答)
問7 あなたは週に何日働いていますか。	(働いていると回答した方のみ)
問8 あなたは1日に平均して何時間働いていますか。	(働いていると回答した方のみ)

「働いていない生徒」が81.6%と約8割を占め、「働いている生徒」は18.4%となっています。

	回答数(人)	割合
働いている	79	18.4%
働いていない	351	81.6%
総計	430	100.0%

《就労状況》

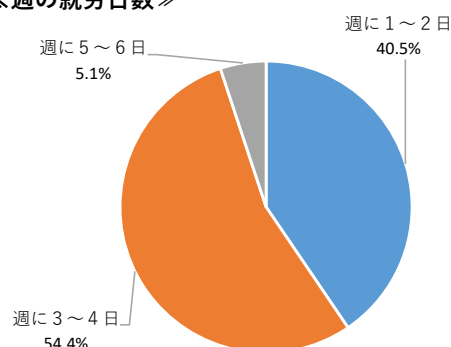


「週に3～4日働いている」が54.4%と最も多く、次いで「週に1～2日働いている」が40.5%、「週に5～6日働いている」が5.1%となっています。

働いている日数	回答数(人)	割合
週に1～2日	32	40.5%
週に3～4日	43	54.4%
週に5～6日	4	5.1%
毎日	0	0.0%

n = 79

《週の就労日数》

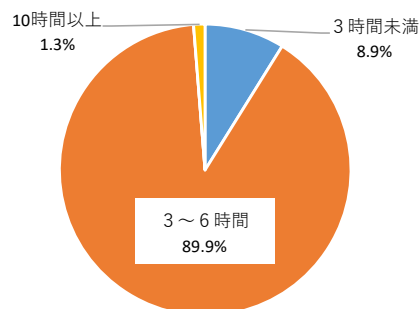


1日の平均勤務時間は、「3～6時間」が89.9%と最も多く、次いで「3時間未満」が8.9%、「10時間以上」が1.3%となっています。

働いている時間	回答数(人)	割合
3時間未満	7	8.9%
3～6時間	71	89.9%
6～10時間	0	0.0%
10時間以上	1	1.3%

n = 79

《1日の平均就労時間》



(7) 家族構成

問9 あなたと一緒に住んでいる人はいますか。

(全員回答)

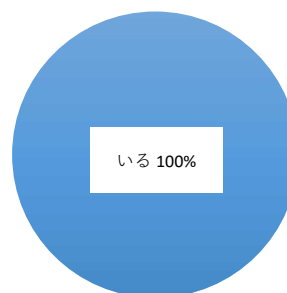
問10 あなたと一緒に住んでいる人は誰ですか。

(複数回答)

回答した高校生全員が、一緒に住んでいる人がいました。その内訳は、「母」が98.6%と最も多く、次いで「父」が84.0%、「弟・妹」が47.7%、「兄・姉」が41.9%となっています。

一緒に住んでいる人の有無	回答数(人)	割合
いる	430	100.0%
いない (ひとり暮らし)	0	0.0%
総計	430	100.0%

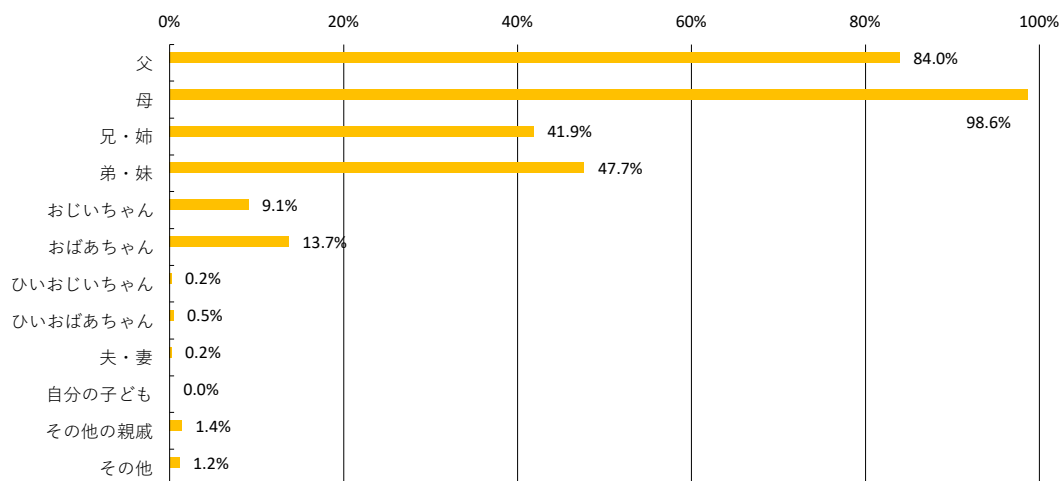
《一緒に住んでいる人の有無》



一緒に住んでいる人は誰	回答数(人)	割合
父	361	84.0%
母	424	98.6%
兄・姉	180	41.9%
弟・妹	205	47.7%
おじいちゃん	39	9.1%
おばあちゃん	59	13.7%
ひいおじいちゃん	1	0.2%
ひいおばあちゃん	2	0.5%
夫・妻	1	0.2%
自分の子ども	0	0.0%
その他の親戚	6	1.4%
その他	5	1.2%

n = 430

《一緒に住んでいる人は誰》



2. 家族や家庭について

(1) ケアを必要としている家族の有無

問11 あなたと一緒に住んでいる人の中で、ケアを必要としている人はいますか。 (全員回答)

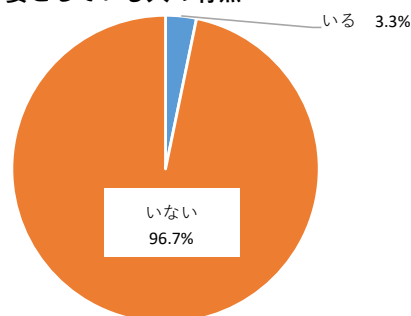
問12 ケアを必要としている人は誰ですか。

(ケアを必要としている人がいると回答した方のみ) (複数回答)

ケアを必要としている人が「いない」が96.7%と最も多く、ケアを必要としている人が「いる」が3.3%となっています。

	回答数(人)	割合
いる	14	3.3%
いない	416	96.7%
総計	430	100.0%

《ケアを必要としている人の有無》

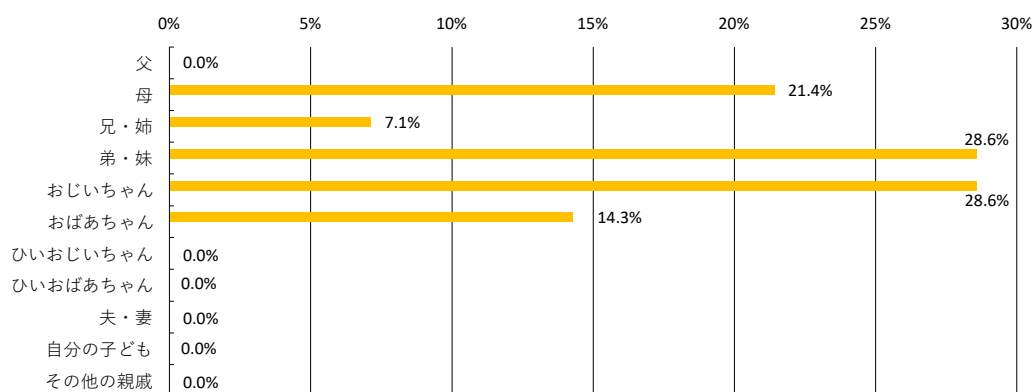


ケアを必要としている人の中で、「弟・妹」と「おじいちゃん」が28.6%と最も多く、次いで「母」が21.4%、「おばあちゃん」が14.3%となっています。

ケアを必要としている人は誰	回答数(人)	割合
父	0	0.0%
母	3	21.4%
兄・姉	1	7.1%
弟・妹	4	28.6%
おじいちゃん	4	28.6%
おばあちゃん	2	14.3%
ひいおじいちゃん	0	0.0%
ひいおばあちゃん	0	0.0%
夫・妻	0	0.0%
自分の子ども	0	0.0%
その他の親戚	0	0.0%

n = 14

《ケアを必要としている人は誰》



(2) ケアを受けている人の状況

問13 ケアを受けている人の状況を教えてください。

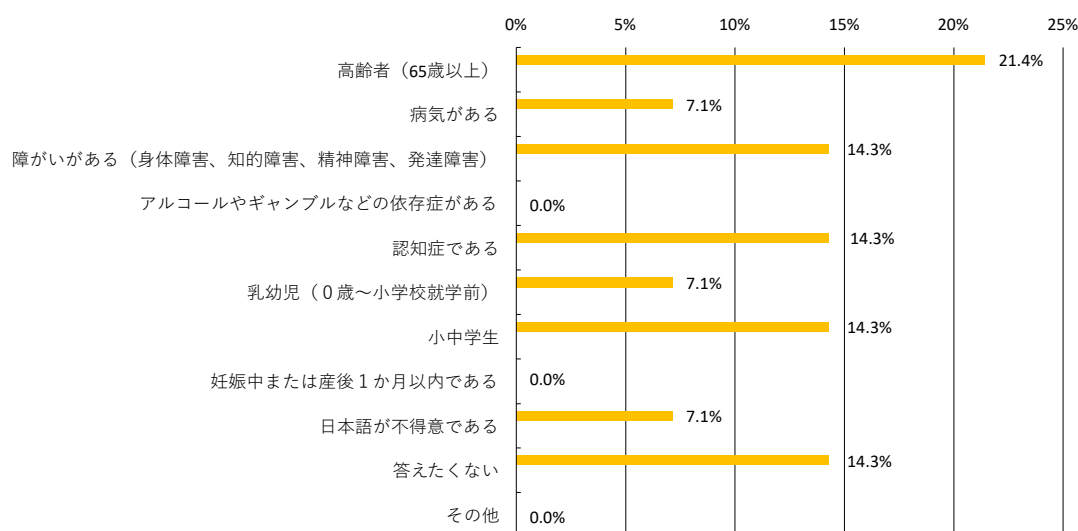
(複数回答)

(ケアを必要としている人がいると回答した方のみ)

ケアを受けている人の中で「高齢者（65歳以上）」が21.4%と最も多く、次いで「障がいがある」と「認知症である」と「小中学生」と「答えたくない」が14.3%となっています。

ケアを受けている人	回答数(人)	割合
高齢者（65歳以上）	3	21.4%
病気がある	1	7.1%
障がいがある（身体障害、知的障害、精神障害、発達障害）	2	14.3%
アルコールやギャンブルなどの依存症がある	0	0.0%
認知症である	2	14.3%
乳幼児（0歳～小学校就学前）	1	7.1%
小中学生	2	14.3%
妊娠中または産後1か月以内である	0	0.0%
日本語が不得意である	1	7.1%
答えたくない	2	14.3%
その他	0	0.0%

n = 14



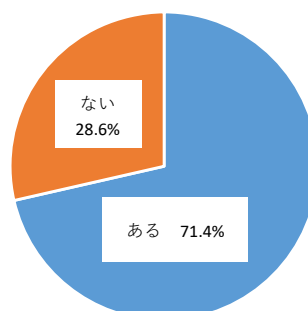
(3) ケアの有無

問14 あなたはその人のケアをすることはありますか。

(ケアを必要としている人がいると回答した方のみ)

ケアをすることが「ある」が71.4%と最も多く、ケアをすることは「ない」は28.6%となっています。

	回答数(人)	割合
ある	10	71.4%
ない	4	28.6%
総計	14	100.0%



3. ケアの内容について

(1) ケアの内容

問15 あなたはその人にどのようなケアをしていますか。

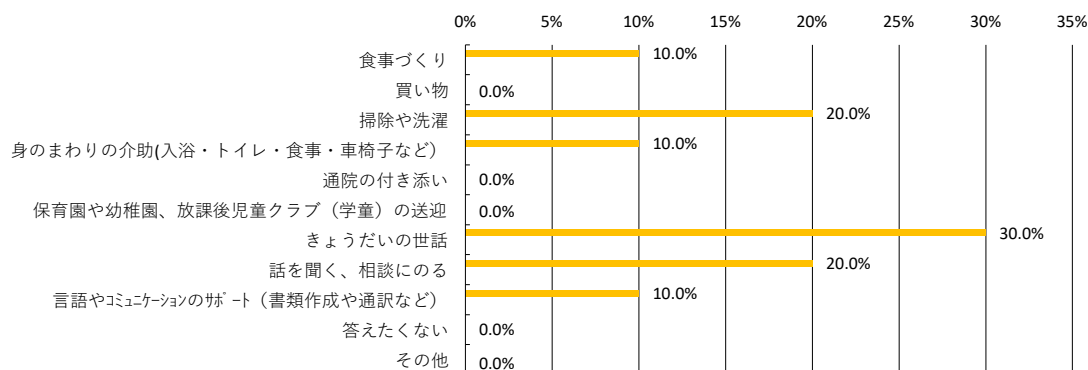
(複数回答)

(「ケアをすることがある」と回答した方のみ)

ケアの内容の中で「きょうだいの世話」が30%と最も多く、次いで「掃除や洗濯」と「話を聞く、相談にのる」が20%、「食事づくり」と「身のまわりの介助」と「言語やコミュニケーションのサポート」が10%となっています。

ケアの内容	回答数(人)	割合
食事づくり	1	10.0%
買い物	0	0.0%
掃除や洗濯	2	20.0%
身のまわりの介助(入浴・トイレ・食事・車椅子など)	1	10.0%
通院の付き添い	0	0.0%
保育園や幼稚園、放課後児童クラブ(学童)の送迎	0	0.0%
きょうだいの世話	3	30.0%
話を聞く、相談にのる	2	20.0%
言語やコミュニケーションのサポート(書類作成や通訳など)	1	10.0%
答えたくない	0	0.0%
その他	0	0.0%

n = 10



(2) ケアを一緒にしている人の有無

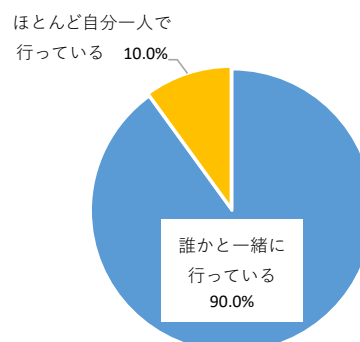
問16 あなたはその人のケアを誰かと一緒に行っていますか。

(「ケアをすることがある」と回答した方のみ)

ケアを「誰かと一緒に行っている」が90%と最も多く、「ほとんど自分一人で行っている」は10%となっています。

	回答数(人)	割合
誰かと一緒に行っている	9	90.0%
半分くらいは誰かと一緒に行っている	0	0.0%
ほとんど自分一人で行っている	1	10.0%
誰もいない	0	0.0%
考えたくない	0	0.0%

n = 10



(3) ケアの頻度

問17 あなたが、その人のケアを行う頻度はどれくらいですか。

(「ケアをすることがある」と回答した方のみ)

問18 あなたはその人のケアを1日どのくらい行っていますか。

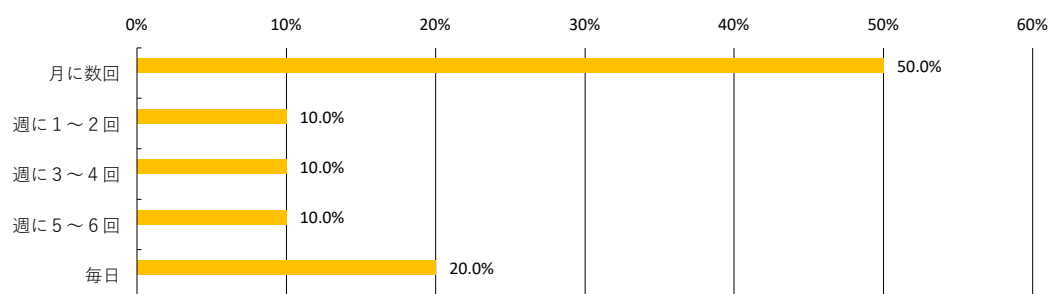
(「ケアをすることがある」と回答した方のみ)

ケアを行う頻度の中で「月に数回」が50%と最も多く、次いで「毎日」が20%、「週に1～2回」と「週に3～4回」と「週に5～6回」が10%となっています。

ケアを行う頻度	回答数(人)	割合
月に数回	5	50.0%
週に1～2回	1	10.0%
週に3～4回	1	10.0%
週に5～6回	1	10.0%
毎日	2	20.0%

n = 10

《ケアを行う頻度》

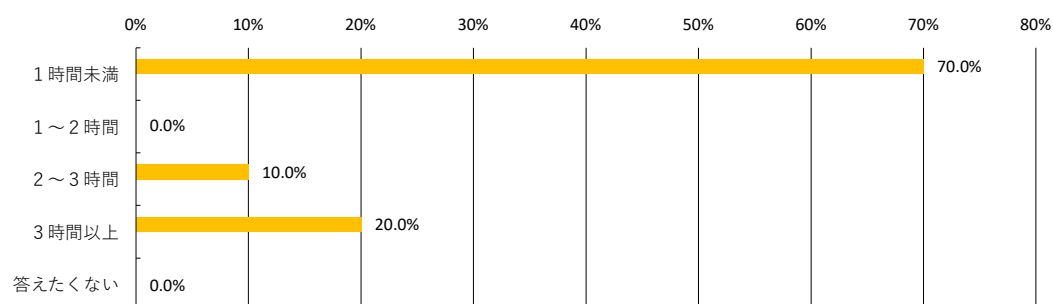


1日のケアの時間の中で、「1時間未満」が70%と最も多く、次いで「3時間以上」が20%、「2～3時間」が10%となっています。

ケアの時間	回答数(人)	割合
1時間未満	7	70.0%
1～2時間	0	0.0%
2～3時間	1	10.0%
3時間以上	2	20.0%
答えたくない	0	0.0%

n = 10

《ケアを行う時間（1日）》



(4) ケアを行う時

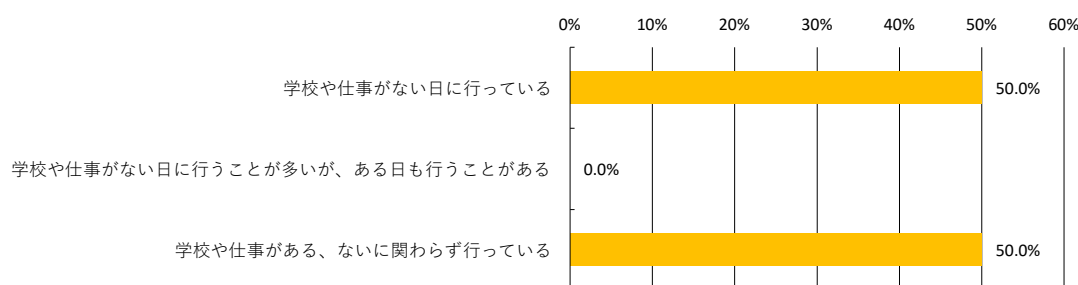
問19 あなたはその人のケアをいつ行うことが多いですか。

(「ケアをすることがある」と回答した方のみ)

ケアを行っている時は、「学校や仕事がない日に行っている」と「学校や仕事がある、ないに関わらず行っている」が50%となっています。

	回答数(人)	割合
学校や仕事がない日に行っている	5	50.0%
学校や仕事がない日に行くことが多いが、ある日も行うことがある	0	0.0%
学校や仕事がある、ないに関わらず行っている	5	50.0%

n = 10



(5) ケアを始めた時期

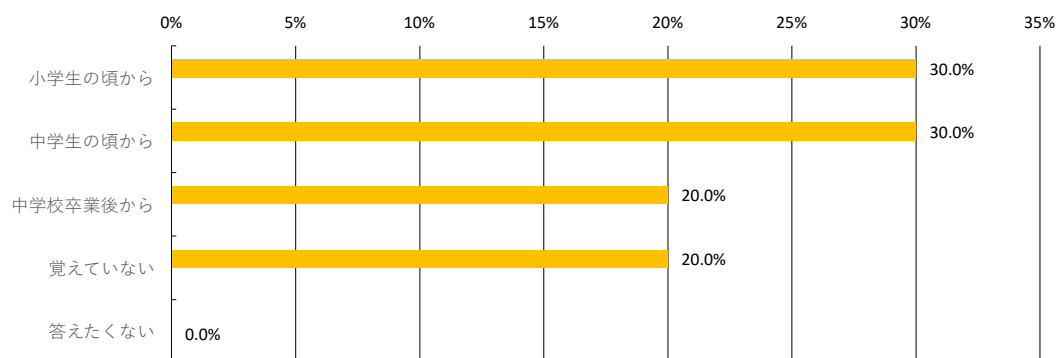
問20 あなたはその人のケアをいつ頃から行っていますか。

(「ケアをすることがある」と回答した方のみ)

ケアを行っていた時期の中で、「小学生の頃から」と「中学生の頃から」が30%と最も多く、次いで「中学校卒業後から」と「覚えていない」が20%となっています。

ケアを行っていた時期	回答数(人)	割合
小学生の頃から	3	30.0%
中学生の頃から	3	30.0%
中学校卒業後から	2	20.0%
覚えていない	2	20.0%
答えたくない	0	0.0%

n = 10



4. 生活の影響や悩み事の相談

(1) ケアを行うことで出ている生活の影響

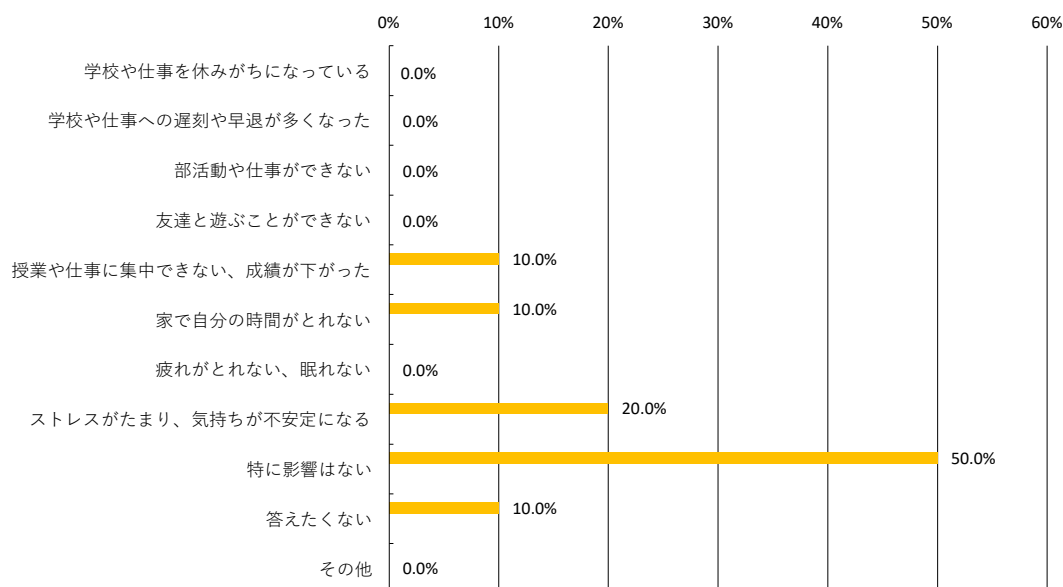
問21 あなたはその人のケアを行うことで、自分の生活に影響が出ていると思いますか。

(「ケアをすることがある」と回答した方のみ) (複数回答)

生活への影響の中で、「特に影響はない」が50%と最も多く、次いで「ストレスがたまり、気持ち不安定になる」が20%、「授業や仕事に集中できない、成績が下がった」と「家で自分の時間がとれない」と「答えたくない」が10%となっています。

生活への影響	回答数(人)	割合
学校や仕事を休みがちになっている	0	0.0%
学校や仕事への遅刻や早退が多くなった	0	0.0%
部活動や仕事ができない	0	0.0%
友達と遊ぶことができない	0	0.0%
授業や仕事に集中できない、成績が下がった	1	10.0%
家で自分の時間がとれない	1	10.0%
疲れがとれない、眠れない	0	0.0%
ストレスがたまり、気持ち不安定になる	2	20.0%
特に影響はない	5	50.0%
答えたくない	1	10.0%
その他	0	0.0%

n = 10



(2) ケアをしていることについての相談

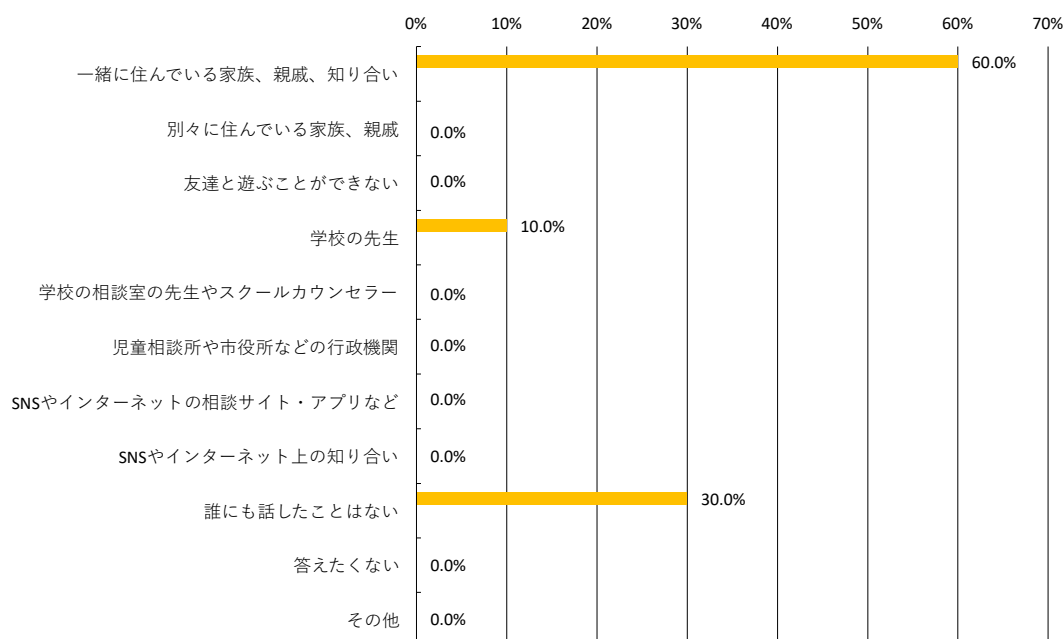
問22 あなたはケアについて、誰かに話したり、相談したことはありますか。

(「ケアをすることがある」と回答した方のみ) (複数回答)

相談相手の中で、「一緒に住んでいる家族、親戚、知り合い」が60%と最も多く、次いで「誰にも話したことはない」が30%、「学校の先生」が10%となっています。

相談相手	回答数(人)	割合
一緒に住んでいる家族、親戚、知り合い	6	60.0%
別々に住んでいる家族、親戚	0	0.0%
友達と遊ぶことができない	0	0.0%
学校の先生	1	10.0%
学校の相談室の先生やスクールカウンセラー	0	0.0%
児童相談所や市役所などの行政機関	0	0.0%
SNSやインターネットの相談サイト・アプリなど	0	0.0%
SNSやインターネット上の知り合い	0	0.0%
誰にも話したことはない	3	30.0%
答えたくない	0	0.0%
その他	0	0.0%

n = 10



(3) 利用したい支援

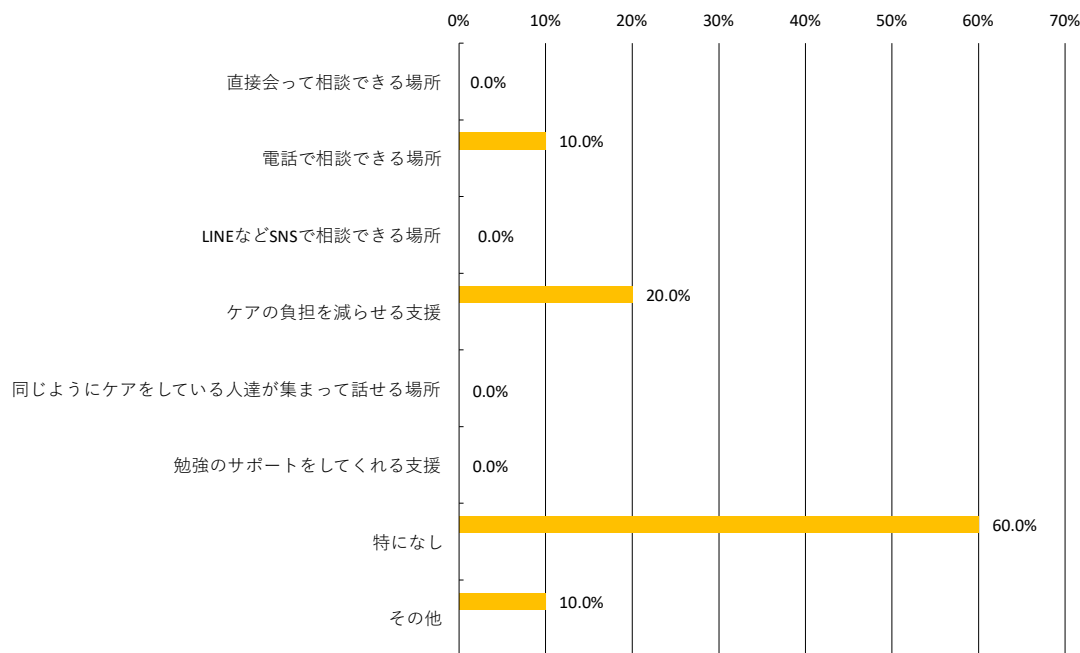
問23 あなたはどのような支援があれば利用したいと思いますか。

(「ケアをすることがある」と回答した方のみ) (複数回答)

利用したい支援の中で、「特になし」が60%と最も多く、次いで「ケアの負担を減らせる支援」が20%、「電話で相談できる場所」と「その他」が10%となっています。その他の回答は、「ケアの仕方を教えてくれて、アドバイスをくれる支援」がありました。

利用したい支援	回答数(人)	割合
直接会って相談できる場所	0	0.0%
電話で相談できる場所	1	10.0%
LINEなどSNSで相談できる場所	0	0.0%
ケアの負担を減らせる支援	2	20.0%
同じようにケアをしている人達が集まって話せる場所	0	0.0%
勉強のサポートをしてくれる支援	0	0.0%
特になし	6	60.0%
その他	1	10.0%

n = 10



5. ヤングケアラーについて

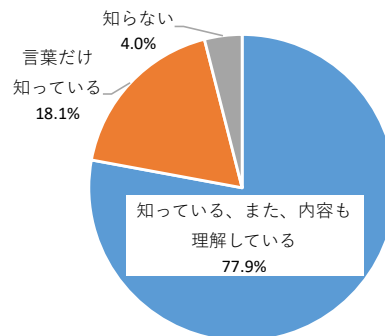
(1) ヤングケアラーの認知度

問24 あなたは「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか。

(全員回答)

ヤングケアラーという言葉を知っている、また、内容も理解している」が77.9%と最も多く、次いで「言葉だけ知っている」が18.1%、「知らない」が4.0%となっています。

	回答数(人)	割合
知っている、また、内容も理解している	335	77.9%
言葉だけ知っている	78	18.1%
知らない	17	4.0%
総数	430	100.0%



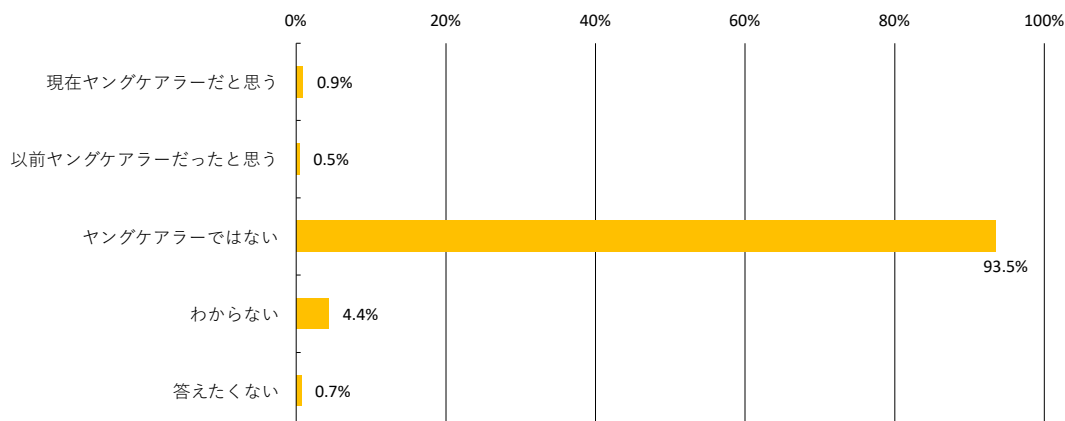
(2) ヤングケアラーの自覚

問25 あなたはヤングケアラーだと思いますか。

(全員回答)

「ヤングケアラーではない」が93.5%と最も多く、次いで「わからない」が4.4%、「現在ヤングケアラーだと思う」が0.9%となっています。

	回答数(人)	割合
現在ヤングケアラーだと思う	4	0.9%
以前ヤングケアラーだったと思う	2	0.5%
ヤングケアラーではない	402	93.5%
わからない	19	4.4%
答えたくない	3	0.7%
総計	430	100.0%



(3) 相談することについて

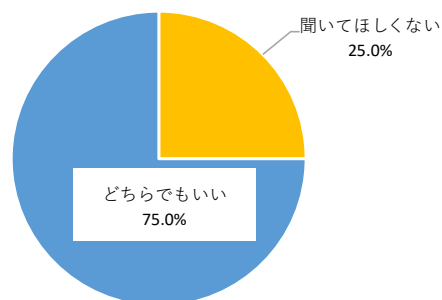
- 問26 子ども家庭センター「ここの巣」で話を聞いてもらいたいですか。
(「ヤングケアラーだと思う」と回答した方のみ)
- 問27 話を聞いてもらう方法はどのような形がよいですか。
(「聞いてほしい」、「どちらでもいい」を回答した方のみ)
- 問28 「ここの巣」から連絡をしてほしいを選んだ人は連絡先をご記入ください。
(該当者なし)

『「ここの巣」で話を聞いてもらいたいか』では、「どちらでもいい」が3人、残りの1人は「聞いてほしくない」と回答がありました。

	回答数(人)	割合
聞いてほしい	0	0.0%
聞いてほしくない	1	25.0%
どちらでもいい	3	75.0%

n = 4

《「ここの巣」で話を聞いてもらいたい》

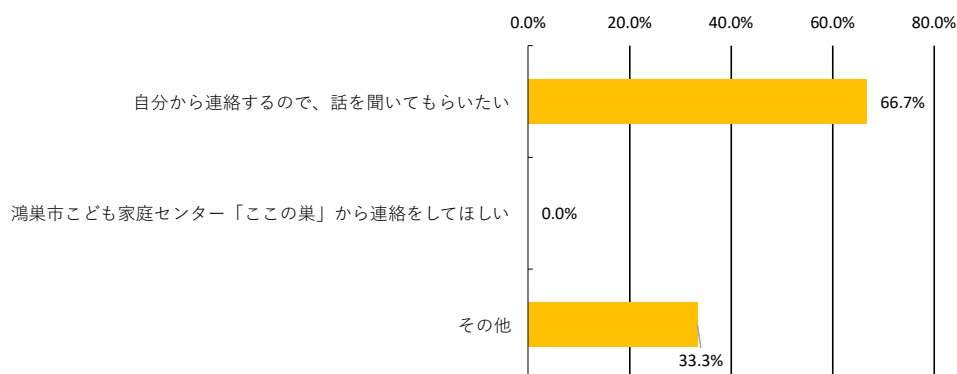


話を聞いてもらう方法は、3人のうち2人が「自分から連絡するので話を聞いてもらいたい」、残りの1人は「匿名やSNS」を希望すると回答がありました。

話を聞いてもらう方法	回答数(人)	割合
自分から連絡するので、話を聞いてもらいたい	2	66.7%
鴻巣市子ども家庭センター「ここの巣」から連絡してほしい	0	0.0%
その他	1	33.3%

n = 3

《話を聞いてもらう方法》



6. その他

問29 あなたが今の生活で感じていること、困っていること、誰かに伝えたいことがあれば自由に記入してください。

自由記述に寄せられた意見は、10件（総数）ありました。

「現在ヤングケアラーだと思う」と回答した人の意見

- ・ 勉強する時間が欲しいし、金銭的援助もほしい

「現在ヤングケアラーだと思う」以外を回答した人の意見

○経済的支援

- ・ 物価高、バイトの賃金を少しでも上げて欲しい

○制度について

- ・ こども医療が充実しているのは非常にありがたい
- ・ 国の予算を国民のために使ってほしい、国民の生活が苦しくなっていることを理解してほしい

○家族

- ・ きょうだい間での不満がある、勉強へのやる気が出ない